

なかむら

まさよし

# 中村 正義

大正13年（1924）～昭和52年（1977）

豊橋市花田町（現 大橋通三丁目）出身



中村正義は、36歳という若さで日展の審査員となり、将来を約束されながら、自由な表現活動と引きかえにその地位を捨て去った。

その後、極彩色の蛍光塗料やボンドなど、当時の日本画では非常識といえる素材を使ったポップ・アート風の作品を発表し、画壇に衝撃を与えた。正義の挑戦は、多様な展開をみせる現代日本画のさきがけといえよう。

「絵はキレイであってはならない。うまくあってはならない。芸術はいやらしい」…人間のリアルな姿を描こうとした正義の言葉である。

日本画の新生と  
画壇の変革をめざした  
画家